

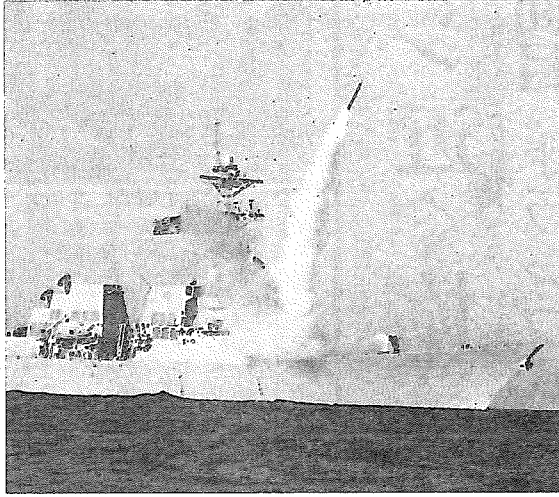
防衛装備 米国依存に危機感

イラン情勢影響 トマホーク納入遅れか

懸念 誘導弾や迎撃ミサイルにも

中東情勢を受け、米国製巡航ミサイル「トマホーク」の米国から日本への納入が遅れる公算が大きくなった。トマホークは政府にとって、敵基地攻撃能力（反撃能力）を早期に得るための「肝」とされており、今後の配備計画への影響は避けられない。政府内では、防衛装備品も含めた「米国依存」への危機感も強まっている。▼1面参照

相手領域内にある敵の発射型ミサイルを2千発近く保有しているときを攻撃する敵基地攻撃能力を持つために、政府は長射程ミサイルの配備を急いでいる。背景には、中国のミサイル能力との差がある。中国は射程500〜5500キロの地上



艦船から発射されるトマホーク
＝米海軍のホームページから

ら、国産の「25式地对艦誘導弾」（射程1千キロ程度）などの配備を始め

た。米国製のトマホークは射程1600キロ程度で、日本は国産のミサイルを実戦配備するまでの「つなぎ」として、早期配備にこだわってきた。2023年10月、購入予定の最新型「ブロック5」の最大400発のうち、およそ半分の最大200発を旧型の「ブロック4」に変更し、1年前倒して25年度からの導入を決めている。

だが、米軍では2月に始まったイランへの攻撃で、トマホークをはじめとする装備品の在庫が逼迫。今後の日本への納入の遅れが濃厚となっている。

影響はトマホークだけにとどまらない。日本が「有償軍事援助」（FMS）で米国から購入している地对空誘導弾「PAC-3」や迎撃ミサイル「SM3」も、米軍がイラン攻撃で大量に消費しており、今後の日本への納入の遅れが懸念されている。そもそもFMSは米側

が契約価格や納入期限を一方的に変更できる制度のため、これまでも納入遅れが続いていた。防衛省幹部は、「FMSはそういう宿命のものだ」と話す。

日本はこれまで、米国製の装備品購入を進めてきたが、イラン情勢の影響を受けて、装備品調達における「脱米国依存」を進めるべきだとの考えも政府内で出ている。F35戦闘機をはじめ、米国

以外から購入できない装備品も多い一方で、同じ能力の装備品がある場合には、欧州などからの購入を検討する流れが進む可能性がある。（佐藤瑞季）

出典：「朝日新聞」2026年4月16日付

〈防衛装備移転三原則の運用指針〉（抜粋）

2 海外移転の厳格審査の視点

(1) 個別案件の輸出許可

…自衛隊法上の武器に該当する完成品に係る防衛装備の海外移転については、武力紛争の一環として現に戦闘が行われていると判断される国に対して行われるもの

（国際共同開発・生産に係る防衛装備のパートナー国への移転及びライセンス生産品に係る防衛装備のライセンス元国からの要請に基づく提供（ライセンス元国からの更なる提供を含まない。）を除く。）を原則として認めないこととし、我が国の安全保障上の必要性を考慮して特段の事情がある場合に限り海外移転を認め得ることとする。…

3 適正管理の確保

…自衛隊法上の武器に該当する完成品の移転後の管理状況の確認に当たっては、政府又は移転する防衛装備の管理に責任を有する者等に対して必要な調査を行うこととする。…

出典：「防衛装備移転三原則の運用指針」（2026年4月21日一部改正）より抜粋